

## 経結膜的埋没法二重術 (当グループ術式名: クイックコスメティーク法) 879例の解析

長谷川 裕之<sup>1</sup> 山口 憲昭<sup>1</sup>

Hiroyuki Hasegawa<sup>1</sup> Kazuaki Yamaguchi<sup>1</sup>

湘南美容外科クリニック<sup>1</sup>

### 【背景】

よりダウンタイムの少ない埋没重瞼法として経結膜的埋没法がある。今回、同一術者によって行なった経結膜埋没法について後方視的に検討を行なった。

### 【方法】

2015年12月から2017年6月までの879例の患者背景および術後の重瞼消失率およびその他訴え等を検討した。

### 【結果】

平均年齢27.5歳(標準偏差22.3)、女性825人、男性54人であった。平均フォロー期間は287.6日(標準偏差173.0)であった。重瞼線の消失および幅の短縮に伴う再手術は22例(2.5%)認めた。また重瞼幅または重瞼線の左右差の訴えは10例(1.1%)認めた。結膜側からの糸の露出による異物感は0件(0%)であった。

### 【結論】

経結膜法による重瞼術は、合併の少ない、安定した術式と考えられる。今後前向き比較試験等によりさらなる検討を行う予定である。